

# 連合愛知安全衛生センターだより

愛知県労働者安全衛生センター 〒456-0002 名古屋市熱田区金山町1丁目4-18 ワークライフプラザれある 3F  
TEL(052) 684-0003 FAX(052) 684-0303 連合愛知ホームページからも閲覧できます <http://www.rengo-aichi.or.jp>

## 全国安全週間に向けて ～第1回安全衛生担当者研修会を開催～

7月の全国安全週間に向けた取り組みとして、「第1回安全衛生担当者研修会」を開催し、各構成組織・加盟組合、安全衛生センター理事、WEBでの講義聴講者を含めて52名に参加いただきました。

講義、グループワークを実施し、参加者からは「他業種の取り組みを知ることで参考になった」「リスクアセスメントの見方が180度変わった」等、好評を得ました。



### <近藤理事長挨拶>

「職場のリスク」にスポットを当てた講義と、グループワークを通じて、それぞれの組織における安全活動の更なる充実に向けて、活かしていただきたい。

## <全国安全週間> 7月1日～7日 スローガン：安全は 急がず焦らず怠らず



### <講義>

#### 「安全はマネジメント」

日本の労働安全の考え方は欧米諸国に比べ特異である。危機管理の違い、リスクアセスメントの進め方について具体的な事例を交え講義がされました。



愛知労働局 濱田 勉 様

全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に、一度も中断することなく続けられ、今年で95回目を迎えます。

この間、事業場では、労使が協調して労働災害防止対策が展開されてきました。この努力により労働災害は長期的には減少してきましたが、近年、就業人口の高齢化による高齢労働者の労働災害や転倒や腰痛といった、労働者の作業行動に起因する労働災害が顕著に増加していることから、労働災害全体の件数が再び増加に転じている状況にあります。さらには、死亡災害も令和3年は全国においては増加に転じるなど予断を許さない状況にあります。このような状況において、労働災害を減少させるためには、労使双方が労働災害防止のための基本ルールを徹底し、またそれらを遵守・実行するための時間的・人的に余裕を持った業務体制を構築することが重要です。

### <グループワーク>

- ①職場の安全に関する課題
- ②職場の危険源を減少させる為に取り組めること

産別を超えて活発な意見交換を実施しました！



## 2022年5月度 愛知県の死亡災害発生状況 <6月7日現在速報値>

16人 (1人) 対前年同期9人 (0人) ※ ( ) 内は交通事故による死亡者の内数

	業種・規模	被災者	事故の型	災害状況
5月	土木工事業 9名以下	70代 30年	激突され 移動式クレーン	クレーン機能を備えた車両系建設機械で、U字溝を積込む作業中に、意図せず運転者の服の袖が操縦レバーに触れた等により、アームが急上昇したことで、跳ね上がった吊りクランプが玉掛中の被災者に激突した。
	商業 30～49名	?代 ?年	その他 その他起因物	午前9時5分頃、敷地内で被災者が座り込んだ状態で意識を失っているところを同僚が発見した。被災者は医療機関に搬送されたが、死亡したものの。原因等詳細は調査中
	土木工事業 9名以下	70代 50年	飛来・落下 立木等	被災者は、チェーンソーによる伐木作業中に根本が腐った木がかかり木となったため、処理をしようとしていたところ、突然落下してきたかかり木にはさまれたもの。
	木造家屋建築 工事業	70代 15年	飛来・落下 玉掛金具	木造集合住宅建築工事において、移動式クレーンを用いて合板55枚の束を2階に搬入する作業中、玉掛用具から荷が落下し、玉掛をした被災者が下敷きとなった。玉掛方法はスリングベルト2本で絞りによる方法であった。

# 私たちの職場における取り組み事例

## 第16回

森川 理事 (JAM東海愛知県連絡会副会長・オークマ労働組合執行委員長)

### ■安全衛生の取り組み

弊社は工作機械の製造、販売、サービスを手掛けており、多岐に亘る様々な業務が社内外で行われています。制服を着た全ての者が少なくとも基準内の安全作業ができるような取り組みを重要視しています。

誰もが安心と感じ安全で働くには、事故を起こさないことです。職場毎に安全パトロールが毎週行われ、事故を未然に防ぐ活動が行われています。また、1年以内に事故が起きた職場では、パトロールの際に事故の教訓が生かされ継続されているかの確認をしています。

起きてしまった事故に対しては、真因をしっかりと把握し対策することが必要だとの考えで取り組みをしており、安全衛生委員会では、災害報告の検証から真因究明、今後の対策、そして対策の効果の確認をしています。加工、組立、サービス、設計、技術、事務など多岐に渡る業務であっても災害対策の迅速な水平展開と再発させない啓蒙が必要と考え、毎週、安全事務局より安全指導事項として過去の災害事例からの教訓が示され各職場において読み合わせが行われています。

また、今月は来月の安全週間に向けた準備期間となっています。一つ紹介させていただければ、社内のヒヤリハット事例をイラストで提出してもらい優秀作品を表彰する取り組みをしています。

イラストの上手い・下手関係なく広く募集し、まずは書く側として危険に対する問題意識の訓練をします。作品の一部は優秀作品として全社に公開し、各職場のKYミーティングで活用されています。

災害を出さない、再発させない、無事に家に帰ることを根本にした取り組みを労使で継続し、安全最優先で“今日もゼロ災でいこうヨシ！”を合言葉に取り組みを進めています。



森川 理事

## STOP! 熱中症 令和4年5月～9月 クールワークキャンペーン

1日あたり1.2リットル



### 1 熱中症とは

「熱中症」とは、暑熱環境に身体が適応できずに起こる様々な状態の総称です。持病など、他の原因があるものを除き、諸症状を広く含めます。従来、症状によって、熱失神、熱けいれん、熱疲労、熱射病などに分類してきましたが、現在では、一連の症状を総称して「熱中症」と呼ぶようになりました。これらの症状は、対応の仕方や被災者側の体調によって刻々と変化しますから、**症状分類にとらわれずに「熱中症」ととらえることが大切です。**

#### 熱中症の分類 (病態と対応)

重症度	症状	対応
I度	<ul style="list-style-type: none"> <li>汗が、拭いても拭いても出てくる (大量の発汗)</li> <li>めまい、立ちくらみがある</li> <li>筋肉のこむら返りがある (痛い)</li> <li>* I度では、意識障害を認めない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 冷所に移し、安静にして体を冷やしましょう</li> <li>✓ 水分・塩分を補給しましょう</li> <li>* 通常は現場で対応が可能</li> </ul>
II度	<ul style="list-style-type: none"> <li>頭ががらがらする (頭痛)</li> <li>吐き気がする、吐く</li> <li>体がだるい (倦怠感・虚脱感)</li> <li>* II度では、集中力や判断力の低下を認める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ I度の対応に加え、必ず誰かが付き添うようにしましょう</li> <li>✓ 症状が改善しなければすぐに病院に運びましょう</li> <li>* 医療機関での診察が必要</li> </ul>
III度	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識がない</li> <li>体がひきつける (痙攣)</li> <li>呼びかけに対し返事がおかしい</li> <li>真直ぐに歩けない、走れない</li> <li>高い体温である</li> <li>* III度では、意識障害や臓器 (肝臓等) 障害、血液凝固異常を認める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ I度、II度の対応をしながら、すぐに救急車で、病院に運びましょう</li> <li>* 入院 (場合により集中治療) 治療が必要</li> </ul>

(参考文献 環境省「熱中症環境保健マニュアル2019」・日本救急医学会「熱中症診療ガイドライン2015」)

- 熱中症の裏には脱水症状 (水分・塩分などの電解質の不足) が隠れています。
- 大量の発汗、目がしみるような塩分の濃い汗が出始めたら要注意!!

#### I度熱中症の脱水をみつけるポイント

- ① 原因不明の発熱
- ② 急激な体重減少 (7日以内に4%を超える体重減少)
- ③ 尿が濃くなる
- ④ わきの下が乾燥する
- ⑤ 舌が乾燥する
- ⑥ 手の甲の皮膚をつまみ上げると固く戻らない (3秒 上戻らない)
- ⑦ 脱水症状になると血液は重要な臓器に集まるため、握手で手が冷たく感じる

### 2 熱中症が発生したら

- 熱中症対策はI度のうちに。II度以上は休業を要することもあり、III度では多くの方が帰らぬ人となります。
- 万一熱中症が起こったら、涼しい場所で衣類をゆるめ、体を冷して経口補水液を与えます。(意識がない場合や朦朧としている場合には無理に水分を摂らせると気管支や肺に入り危険なことがありますので注意してください。)
- 死亡例をみると、
  - 医師に見てもらわなかった例
  - 具合の悪い労働者を一人で放置した例
 などが多くみられます。
- 応急措置を行うとともに、**躊躇せず救急車を呼び、早めに医療機関で受診させて下さい。**
- また、熱中症と思われる労働者を決して一人で放置しないで下さい。



#### 現場での応急措置 体の冷しかた

救急車を呼び到着を待つ間に体を冷します。冷やかたには次のような方法があります。

体表近くに太い静脈がある、次のような場所を冷やすのが効果的です。



- 濡らしたタオルやハンカチをあてて、うちわや扇風機等で冷やす。
- 服や下着の上から少しずつ冷やした水をかける。
- 冷やした水のペットボトル、ビニール袋入りのかき割水、氷のう等を当てて、皮膚直下の血液を冷やす。

- 前頭部の両脇 (首の付け根)
- 腋窩部 (脇の下)
- 鼠径部 (大腿の付け根の前面、股関節部)

#### 水分や塩分の補給のしかた

熱中症予防のためには、作業開始前から終了後まで、こまめに水分と塩分を補給することが重要です。喉が渇いていなくても時間を決めて補給するようにしましょう。補給の際は、少し塩分が入った水(0.1~0.2%の食塩水)がよいとされています。さらに、若干の糖分も同時に補給すると持久力が向上します。スポーツドリンクや経口補水液等を適切に使用しましょう。

- 通常の水分・電解質補給……スポーツドリンクなど
- 熱中症の兆候がある時……経口補水液など

